

障がい者の雇用促進について

平成21年11月

京都府商工労働観光部総合就業支援室

京都府の障害者雇用をめぐる状況

(1) 障害者の雇用数・実雇用率の推移

※ 毎年6月1日現在の企業からの障害者雇用状況報告による(56人以上の規模の企業)

(注)

「障害者の数」は以下の者の合計。

身体障害者(重度身体障害者はダブルカウント)

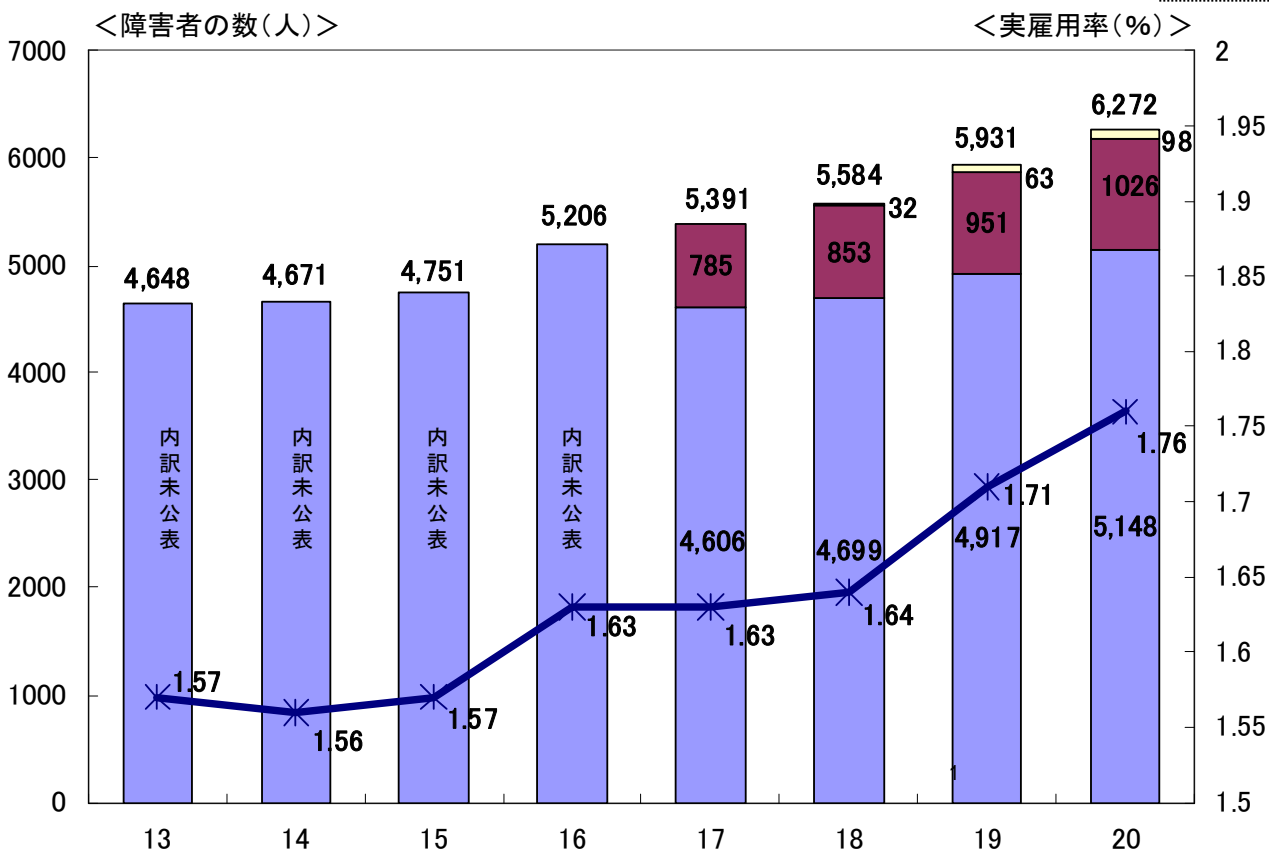
知的障害者(重度知的障害者はダブルカウント)

重度身体障害者である短時間労働者

重度知的障害者である短時間労働者

精神障害者(短時間労働者は0.5カウント)

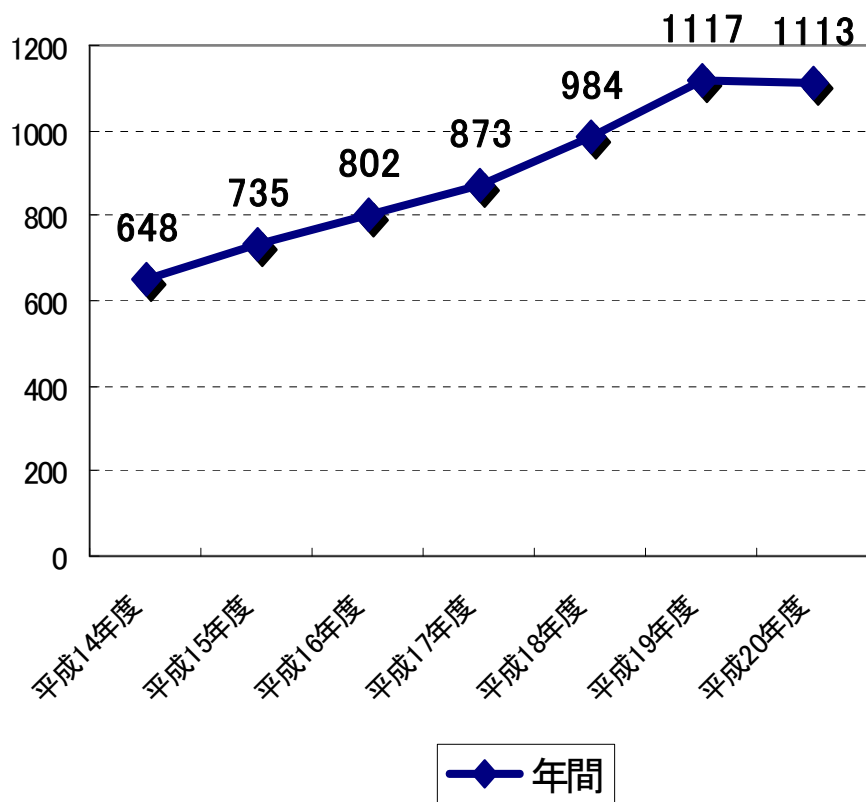
■ 身体障害者 ■ 知的障害者 ■ 精神障害者 ◆ 実雇用率



京都府の障害者雇用をめぐる状況

(3) 障害者の就職件数の推移

- ハローワークにおける障害者の就職件数は着実に伸びている。(20年度は年度後半の景気悪化を受けて横ばい。)



- ① 障害者の「働きたい」という意欲の高まり
(新規求職件数の着実な伸び)
- ② 企業側の取組の拡大
 - ・ コンプライアンス、CSRの観点からの障害者雇用の取組の進捗
 - ・ 雇用率達成指導の強化への対応
- ③ ハローワークの取組強化
 - ・ 就職件数などの目標設定・管理
 - ・ トライアル雇用やジョブコーチ支援などの雇用支援策の積極活用
 - ・ 障害者就業・生活支援センターなど関係機関との連携した支援の充実

突然の世界的経済危機・雇用危機

- ・世界規模での大きな混乱と厳しい不況
- ・不況は雇用の収縮に繋がる
- ・21年8月の府の有効求人倍率は0.48倍と、対前年比39.0%の大幅減少、有効求職は同30.4%の大幅増加。有効求人倍率は、本年1月以降、求人の減少・求職の増加が続く中で、低下が続いている。
- ・障害者雇用も厳しい局面を迎えている

	年(年度)平均											平成21年					
	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	3月	4月	5月	6月	7月	8月
全国の完全失業率 (%)	4.1	4.7	4.7	5.0	5.4	5.3	4.7	4.4	4.1	3.9	4.0	4.8	5.0	5.2	5.4	5.7	5.5
全国の完全失業者数 (万人)	279	317	320	340	359	350	313	294	275	257	265	335	346	347	348	359	361
うち非自発的 (万人)	85	102	102	106	151	146	118	100	88	83	88	134	154	151	161	163	164
近畿の完全失業率 (%)	4.9	5.6	5.9	6.3	6.7	6.6	5.6	5.2	5.0	4.4	4.5	5.6	5.4	5.1	5.9	6.3	6.7
近畿の完全失業者数 (万人)	53	61	63	67	71	69	58	54	52	46	47	58	56	53	61	64	69
京都の完全失業率 (%)	4.7	5.2	5.3	5.8	6.4	6.0	5.0	4.7	4.5	4.0	4.2	第1四半期: 5.0	第2四半期: 5.0				
京都の完全失業者数 (千人)	65	71	72	79	86	80	65	61	59	53	56	第1四半期: 6.5	第2四半期: 6.6				
全国の有効求人倍率 (倍※)	0.50	0.49	0.62	0.56	0.56	0.69	0.86	0.98	1.06	1.02	0.77	0.52	0.46	0.44	0.43	0.42	0.42
(全国の正社員有効求人倍率)												0.32	0.27	0.24	0.24	0.24	0.25
京都の有効求人倍率 (倍※)	0.43	0.43	0.53	0.47	0.51	0.63	0.82	0.96	1.02	0.92	0.79	0.58	0.55	0.52	0.50	0.49	0.48
(京都の正社員有効求人倍率)												0.38	0.33	0.30	0.30	0.30	0.30

※ 資料出所：総務省「労働力調査」、厚生労働省京都労働局「月例経済資料」等

◆現状認識

- ・ 京都府内の実雇用率は過去最高水準(1.76%)であるが、法定雇用率未達成
- ・ 求職者は増加しているが、就業者の純増は毎年100~200人程度
- ・ 福祉施設、特別支援学校から一般就労への移行は依然として厳しい

◆施策展開の方向

- ・ 法定雇用率(1.8%)の達成と、これを超える実雇用率2.0%を目指した取組を推進！

「障害のある人も生きがいを持って普通に働ける世の中を作りたい」
ノーマライゼーションの考え方でありますけれども、そういう世の中を京都府が作っていきたいと思っています。

それだけに、一人ひとりが希望に応じた就労の場を選択して、働くことを通じて自己実現を図る機会をどうやって作っていくかが、大きな課題だと思っています。

(平成19年11月 決算特別委員会総括質疑知事答弁より抜粋)



◆重点施策

1 総合的な就労支援の体制づくり

- (1) 京都ジョブパークに「はあとふるジョブカフェ」を新設
- (2) 府の部局を横断するプロジェクトチームを設置
- (3) 関係機関や民間支援団体と連携、協働して総合的な取組を推進

2 地域の社会資源を活かしたきめ細かな支援

- (1) 障害者就業・生活支援センターの拡充
- (2) 地域支援ネットワークの構築

3 障害者雇用の土壌づくり

- (1) 障害者雇用の好事例等の普及拡大
- (2) 障害者雇用促進京都モデルの作成・普及

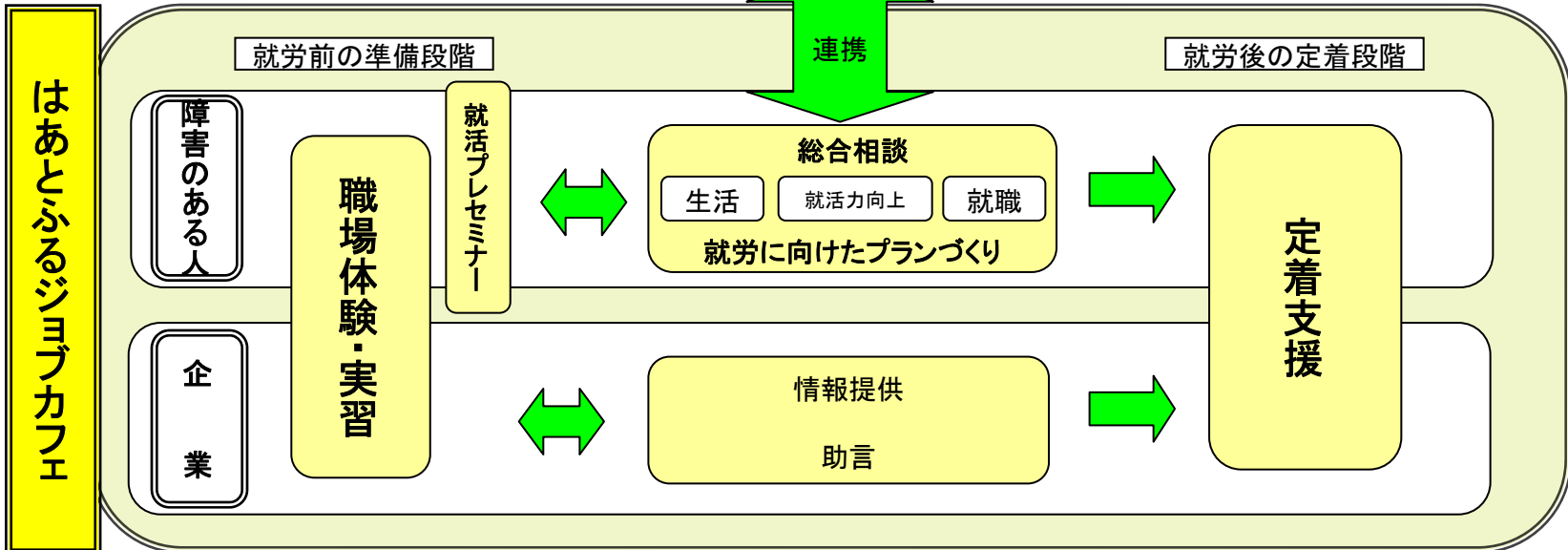
4 積極的に取り組む企業の応援

- (1) 知事の「きずな訪問」の実施
- (2) ひとにやさしい企業認証制度の創設



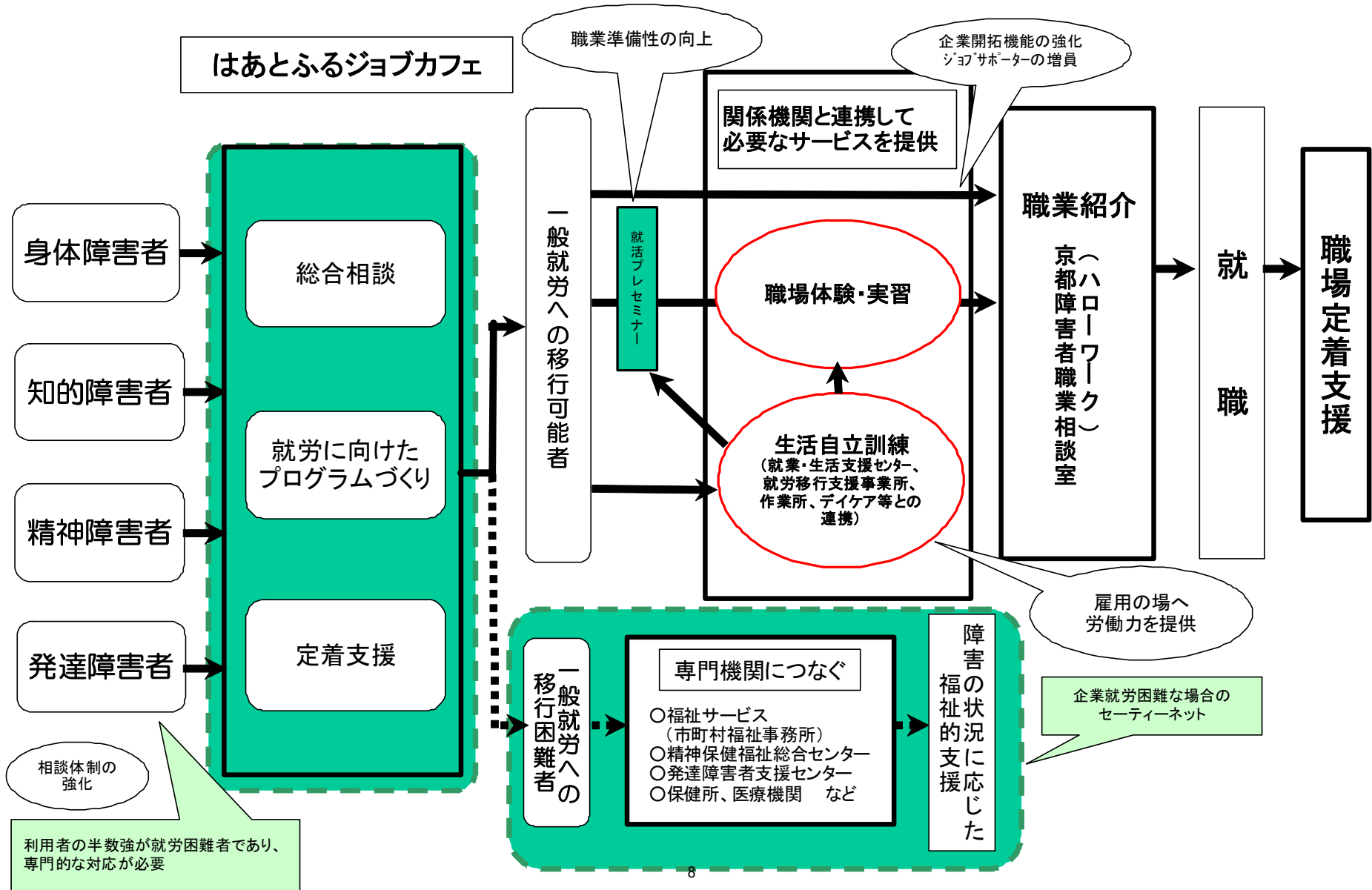
- 障害のある人の就労を幅広く支援.....関係機関と密接に連携し、職業準備性の涵養から企業実習・定着支援まできめ細かなサービスを提供
- 企業の雇用確保・拡大の取組を応援.....関係機関と連携し、企業が安心して障害者を雇用できる仕組みを提供

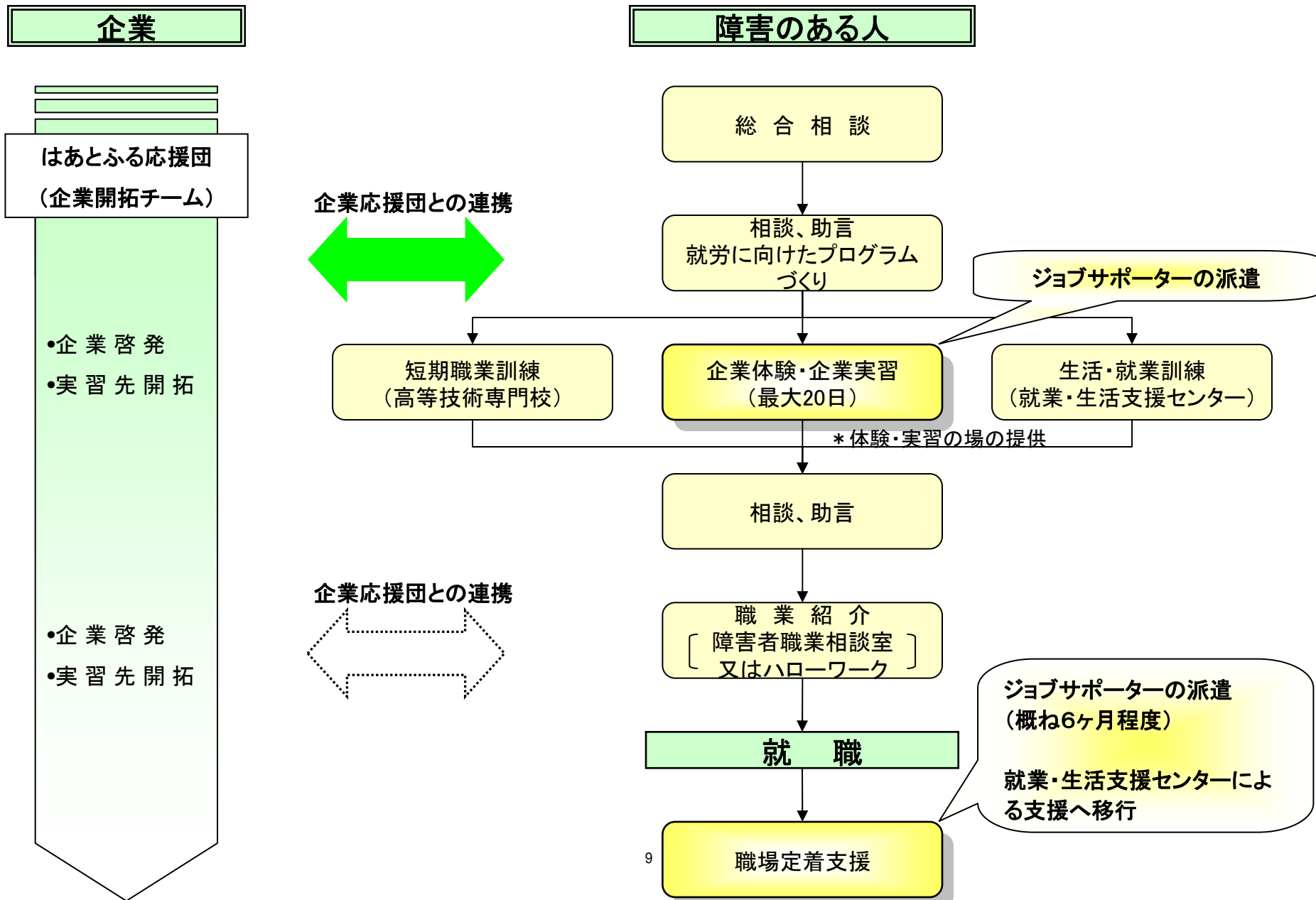
専門機関へつなぐ
障害者職業相談室(ハローワーク)、障害者職業センター、福祉機関、医療・保健機関 など



地域の社会資源を活かしたきめ細かな支援

地域支援ネットワーク
障害者就業・生活支援センター、特別支援学校
福祉施設、市町村、経営者団体 など





■ 来所者の状況(10月末現在) <※は平成20年4月開設時からの累計>

- 延来所者数 1,397人(1日平均8.0人) ※ 2,383人
 (実来所者数 152人(" 0.9人) ※ 456人)
- 来所者の内訳
 - ・ 身体障害者 510人(36.5%)(実来所者54人) ※ 870人(実来所者189人)
 - ・ 知的障害者 335人(24.0%)(" 32人) ※ 440人(" 65人)
 - ・ 精神障害者 506人(36.2%)(" 60人) ※ 934人(" 175人)
 - ・ その他(発達障害) 46人(3.3%)(" 6人) ※ 139人(" 27人)

■ 就職内定者 61人 ※ 102人

■ 職場実習企業訪問数 1,154社 ※ 2,101社

■ " 受入登録企業数 112社 ※ 191社

■ ジョブサポーター養成登録数 49人 ※ 80人

■ 職場実習等件数 29件 ※ 37件

【主な特徴(20年4月～21年10月の利用者)】

- 複数回利用者が増加
- 利用者全体の約4割を精神障害者・発達障害者が占める。
- 就労可能と見込まれる者(職場訓練、職場実習等が必要な者を含む。)が5割弱。
- 5割強が企業就労が困難な者と見込まれ、そのうち6割弱が精神障害者又は発達障害者であり、特に就労支援が困難と見込まれる。

はあとふるジョブカフェ利用者の状況

(平成20年4月～21年10月31日 468日間)

(単位:人)

	来所者数 (割合)	性別		年齢別		
		男	女	～34歳	35～49歳	50歳～
身体障害	870 36.5%	753	117	306	384	180
知的障害	440 18.5%	246	194	240	199	1
精神障害	934 39.2%	688	246	467	399	68
	統合失調症	361	92	118	233	10
	うつ病	208	167	41	104	59
その他	365	252	113	245	107	13
発達障害 (知的除く)	139 5.8%	93	46	84	51	4
	高機能目 閉・アスペル ガー	80	14	51	29	2
	その他	59	27	33	22	2
合計	2,383	1,780 74.8%	603 25.2%	1,097 46.1%	1,033 43.5%	253 10.4%

※利用者数は延人数(実人数は456人)

◆相談ケースの困難度

(実人数)

	就労可	条件付き 就労可	継続相談 (就労困難)	その他 (就労困難)	計	割合
身体	66	47	59	17	189	41.4%
知的	6	35	21	4	66	14.5%
精神	12	51	105	6	174	38.2%
発達	2	3	19	3	27	5.9%
計	86	136	204	30	456	100.0%
割合	18.9%	29.8%	44.7%	6.6%	100.0%	

就労困難者に占める割合
56.8%

精神・発達障害者に占める割合
66.2%

就労可能者の割合
48.7%

就労困難者の割合
51.3%

【現状及び課題】

- 府内の雇用率は1.76%（全国14位）と着実に向上しているが、昨年秋以降の急速な雇用環境の悪化による障害者の就職件数の伸び悩みや、9月28日に京都テルサで開催した障害者就職面接会に過去最高の395人が参加するなど、障害者の雇用環境は一段と厳しい状況にある。
- はあとふるジョブカフェでは、一人ひとりの障害者に寄り添ったきめ細かな就労支援を行っているが、今後とも、増加傾向にある精神・発達障害者への支援体制の強化、企業理解の促進や障害者の技能習得、企業と障害者を結びつける実習体験等の場の確保などを推進していく。

【重点取組事項】

① 障害者一人ひとりの職業準備性向上

- ・ 京都はあとふる就労ステップアップセンターでの就職準備セミナー（労働局との連携事業）
- ・ はあとガーデン（テルサ内喫茶）での接客体験（ほっとはあとセンターとの連携事業）

企業実習の前段階で、一人ひとりの障害特性やニーズに対応したヒューマンスキル、ソーシャルスキル、テクニカルスキルの強化を目指す

② 企業支援機能の強化

- ・ はあとふる応援団の増員
- ・ 実習コーディネートを通じた企業への提言力、アドバイスカの増強
- ・ 実習→雇用に結びつける件数の拡大、企業説明会の実施（12月予定）

府市協働パネルにより、雇用される障害者、雇用する企業双方に対し、必要な支援が地域で総合的に機能する仕組の構築を目指す

③ 相談支援機能の強化

- ・ 増加傾向にある精神・発達障害者への対応力強化（PSWの通年配置等）